

「ノーマライゼーションという言葉のいらないまち」の実現



岩手県陸前高田市



1 陸前高田市の概要

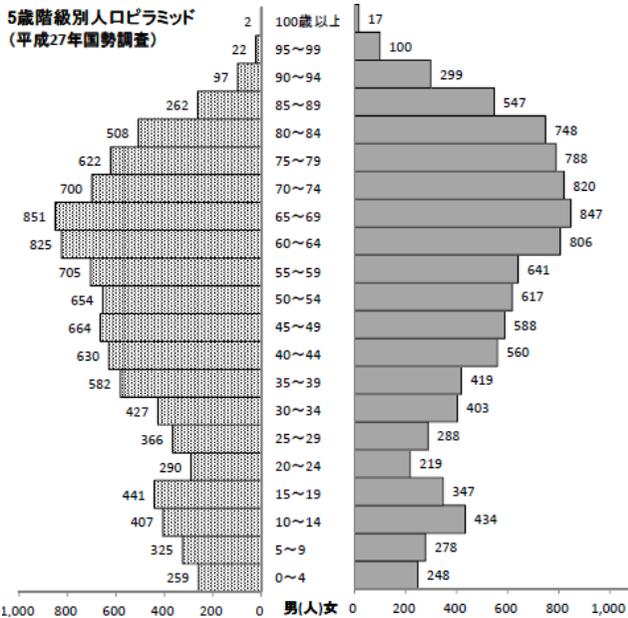
■ 陸前高田市は、岩手県の東南端、三陸海岸の南の玄関口として、大船渡市、住田町、一関市及び宮城県気仙沼市に接し、宮城県との県際に位置

■ リアス式海岸などに代表される自然景観と豊富な農林水産資源、降雪量が非常に少ない県内一温暖な気候など、住みよい住環境に恵まれている

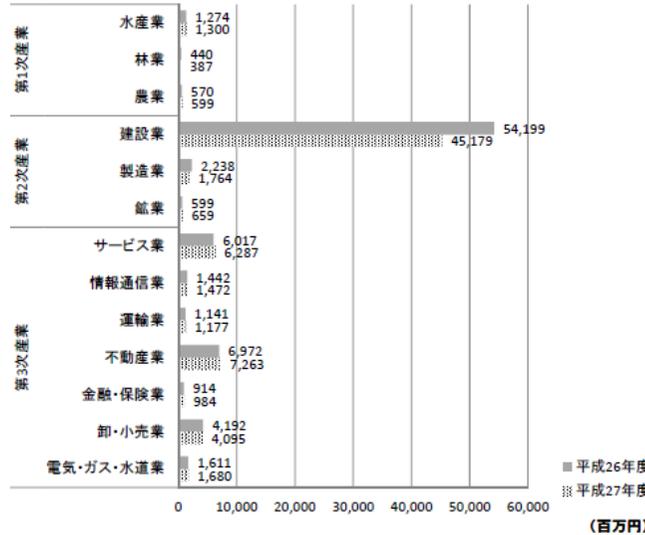
■ 少子高齢化や人口減少などの影響により、産業競争力が脆弱であり、優良な雇用機会が少ない

■ 東日本大震災からの「一日も早い復旧・復興」を目指し、これまで被災者の住宅再建や、生業の再生を最優先課題として、市一丸となり事業を推進

位置



産業別市内純生産



2 東日本大震災による被害の概況

地震の状況

発生時間	平成23年3月11日(金)午後2時46分
震源域	岩手県沖から茨城県沖
地震の規模	マグニチュード9.0
本市の震度	震度6弱(推定)
震源の深さ	約24km

津波の状況

津波浸水高(最大)	17.6m (高田町字法量)
津波浸水面積	13km ² (市の総面積 232.29 km ² の5.5%)

被害の主な状況

(1) 人的被害状況 (H30.2.1時点)

区分	被害数	備考
死者数	1,558人	関連死 47人含む
行方不明者数	202人 (200人)	カッコ内は死亡届があった人数
合計	1,760人	H23.2.28時点 人口24,246人の7.3%

(2) 家屋被害状況 (H31.3.11時点)

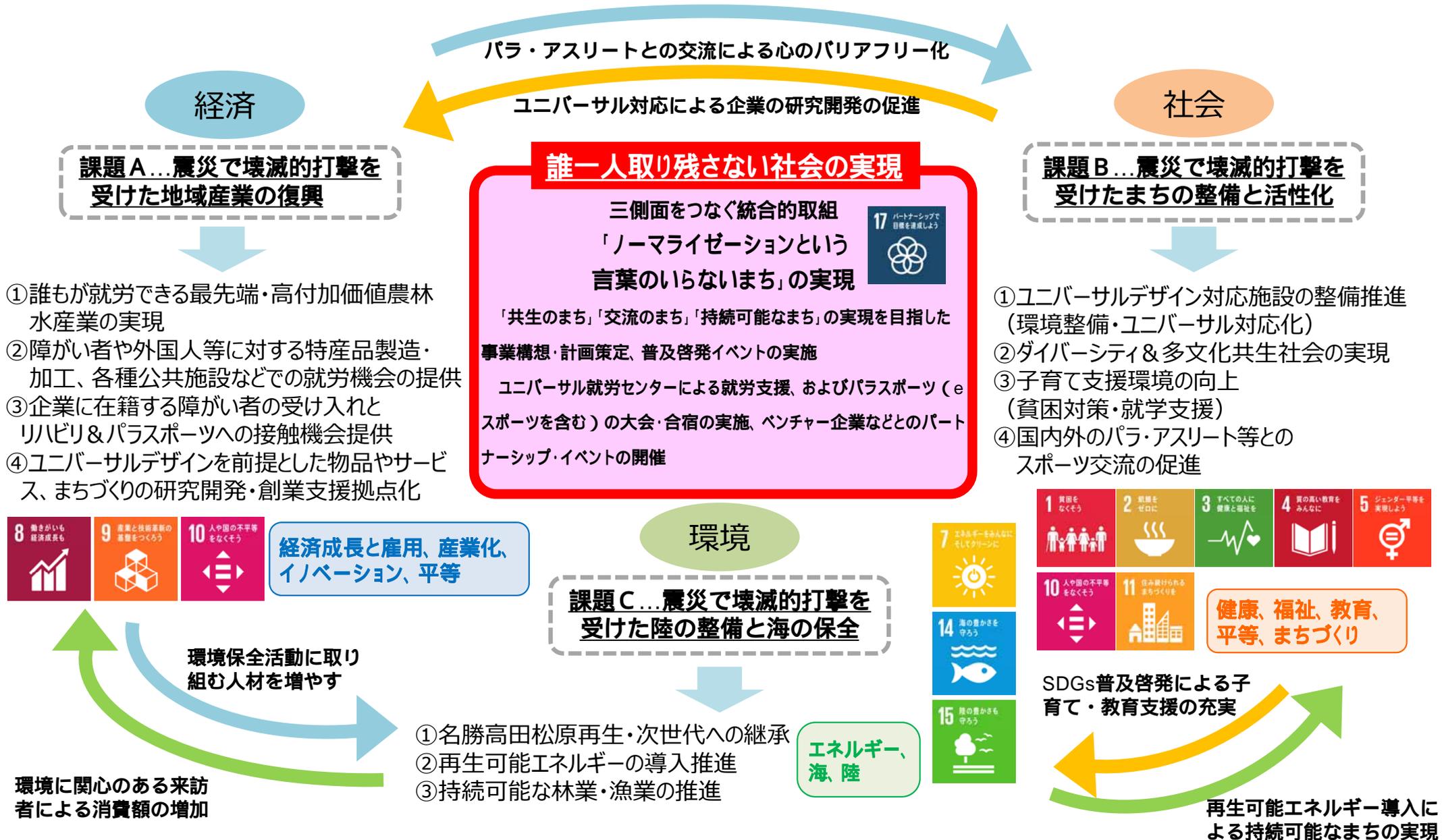
区分	被災世帯数		備考
全壊	3,807	うち津波被害	3,803
		うち地震被害	4
大規模半壊・半壊	240	うち津波被害	216
		うち地震被害	24
一部損壊	3,988	うち津波被害	46
		うち地震被害	3,942
合計	8,035	うち津波被害	4,065
		うち地震被害	3,970
		H23.2.8時点 市内世帯数 8,069の99.5%	

津波浸水区域と浸水高

字名	浸水高	字名	浸水高	字名	浸水高	字名	浸水高
越戸内	10.2m	下宿	14.1m	中川原	14.1m	柳沢	14.5m
神明前	9.6m	法量	17.6m	館	16.4m	久保	10.6m
十日市場	11.3m	砂畑	15.8m	獺沢	13.3m	大祝	12.1m
川口	13.8m	下和野	15.6m	新田前	16.8m	大陽里	11.5m
要谷	13.9m	鳴石	15.5m	鳥嶋	13.9m	後花貝	12.7m



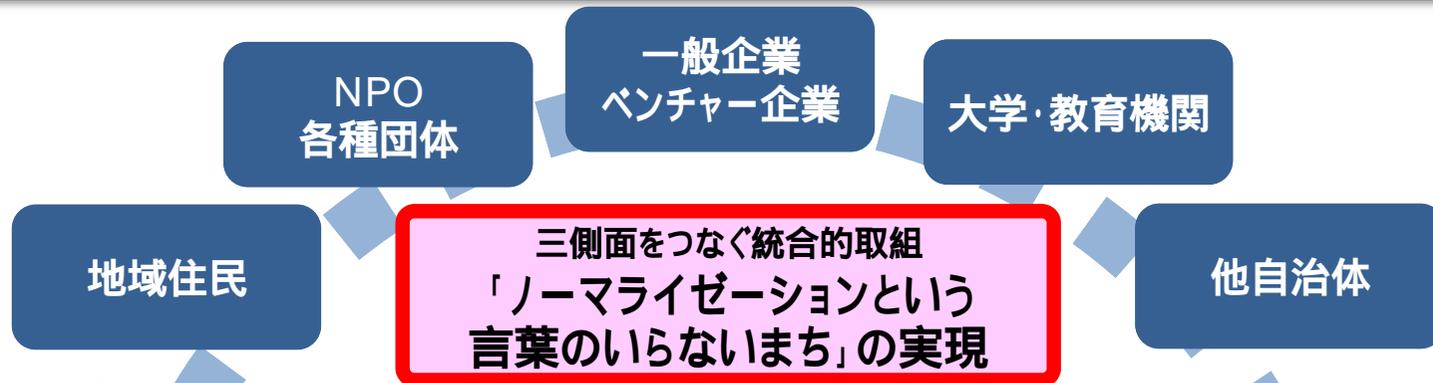
3 自治体SDGsモデル事業の概要



4 三側面をつなぐ統合的取組（補助対象事業の概要）



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



市内外の人々の啓もう
最先端技術・サービス実験

就労支援
中間的就労導入支援

一般企業
ベンチャー企業
共同開発者

経済

パラスポーツ（eスポーツを含む）の大会・合宿の実施
ベンチャー企業などとのパートナーシップ・イベントの開催



社会

ユニバーサル就労センターによる就労支援

障がい者
高齢者
外国人
シングルマザー
など

事業費
3年間総額：80,000千円

ノウハウの提供や販売
新しい収益の確保

自分にあった働き方を
実現できる環境づくり



環境

「共生のまち」「交流のまち」
「持続可能なまち」の実現を目指した事業構想・計画策定、
普及啓発イベントの実施



震災の伝承・防災教育
環境保全の普及啓発

意識醸成
浸透

来訪者（交流人口）市内外・訪日外国人



5 相乗効果（統合的取組によって生じる相乗効果）

経済



- ①誰もが就労できる最先端・高付加価値農林水産業の実現
- ②障がい者や外国人等に対する特産品製造・加工、各種公共施設などでの就労機会の提供
- ③企業に在籍する障がい者の受け入れとリハビリ&パラスポーツへの接触機会提供
- ④ユニバーサルデザインを前提とした物品やサービス、まちづくりの研究開発・創業支援拠点化

【環境保全活動に取り組む人材を増やす】
障がい者や高齢者、外国人、シングルマザーなど一般就労が困難な人へ就労支援を実施する。
→ 公共の環境関連施設や教育機関、農業・林業・漁業などの従事者増
海と陸の環境保全活動と第一次産業が持続可能なものになる。

【環境に関心のある来訪者による消費額の増加】
市への来訪者（交流人口）へ環境保全の普及啓発イベントを実施する。
来訪者の増加に伴い、市内での消費額は増加、経済効果が波及する。

【パラ・アスリートとの交流による心のバリアフリー化】
パラスポーツ（eスポーツを含む）の大会・合宿を実施すると、市内を訪れるパラ・アスリートが増加する。
→ 就労支援や中間的就労導入支援などで定住・就労したりするパラ・アスリート増
市民の意識改革が加速し、精神的なバリアの低減が進む。

【ユニバーサル対応による企業の研究開発の促進】
障がい者や高齢者、外国人、シングルマザー、LGBTなど様々な事情がある人が暮らしやすいノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりを進めていく。
企業などによるユニバーサルデザインを前提とした物品やサービス、まちづくりなどの研究開発が促進。

環境



- ①名勝高田松原再生・次世代への継承
- ②再生可能エネルギーの導入推進
- ③持続可能な林業・漁業の推進

社会



- ①ユニバーサルデザイン対応施設の整備推進（環境整備・ユニバーサル対応化）
- ②ダイバーシティ&多文化共生社会の実現
- ③子育て支援環境の向上（貧困対策・就学支援）
- ④国内外のパラ・アスリート等とのスポーツ交流の促進

【SDGs普及啓発による子育て・教育支援の充実】
SDGs普及啓発イベントなどを通じて、環境保全が進む教育などを実施する。
地元食材をつかった子ども食堂などへの関心が高まり子育て・教育の支援環境の向上につながる。

【再生可能エネルギー導入による持続可能なまちの実現】
新しい概念であるノーマライゼーションという言葉のいらないまちづくりの進展と、市内に木質バイオマスなどの再生可能エネルギーのインフラの導入を進める。
利用率を向上させることで、誰もが安心して生活できる持続可能なまちになる。

6 自律的好循環



多様なステークホルダーとの連携の中から、新たな価値を創造する

ハード面のまちづくりについては、市が中心となって継続して整備を進め、ソフト面では多様なステークホルダーを実行主体とするなど連携を図りながら、永続性のあるまちづくりを進めていく。



誰一人取り残さない社会の実現

「ノーマライゼーションという言葉のいらないまち」の実現

障がい者や高齢者、外国人、シングルマザー、LGBTなど様々な事情がある人が働き、暮らすなかで、生活しやすく働きやすくなるための技術やサービスの開発を民間企業などと共に進めていく。そこで培ったデータや開発されたサービスを外部に積極的に提供・販売することで、ユニバーサル就労センターが継続的に活動していくための新しい収益を得ていく。また、この収益を、まちづくりや環境保全にも活用する。